

発行日	令和3年5月25日	担当者	営農企画課	弓田康詞
対象期間	令和3年5月25日～6月8日			
発行者	JAハイナン 営農企画課			
原稿提出者	○茶：東部C丹所 ○大根・馬鈴薯・メロン：東部C水野 ○水稲・レタス・サニー：西部C河原崎 ○みかん：東部C浅野 ○いちご：西部C村松			

項目 品目	生育状況・病虫害発生状況	管理・病虫害防除														
茶	<p>6月上旬より管内二番茶の製造が開始される見込みです。 開始当初は一番茶摘採から50～52日後の摘採になる事が見込まれます。 今後の気温上昇に伴い、生育は進むことが予想されます。 良質茶生産を心掛け、入念な摘採計画を立ててください。</p> <p>積極的な被覆により差別化と販売価格の向上を目指しましょう。</p> <p>※夏茶生産時期は、農作業が最も集中するため、摘採機や製茶機械の取り扱いには十分注意し、事故の無いよう努めましょう。 ※熱中症対策として、作業中はこまめな水分・塩分補給を心掛けてください。</p>	<p>ウンカ、赤ダニが発生している茶園が散見されました。 被覆する茶園では害虫が増えやすくなるのでしっかりと防除をおこなった茶園に被覆をしてください。</p> <p>ウンカ・スリップス・チャトゲ コルト顆粒水和剤 2,000倍（7日-2回）</p> <p>カンザワハダニ ミルベノック乳剤 1,000倍（7日-1回）</p> <p>炭疽病 ダコニール1000 1,000倍（10日-1回）</p> <table border="0"> <tr> <td>最終防除日</td> <td>地区</td> </tr> <tr> <td>5月23日（日）</td> <td>白羽</td> </tr> <tr> <td>5月25日（火）</td> <td>地頭方(国道150号線以南)</td> </tr> <tr> <td>5月26日（水）</td> <td>地頭方(国道150号線以北)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>相良(須々木、片浜)</td> </tr> <tr> <td>5月27日（木）</td> <td>菅山 萩間</td> </tr> <tr> <td>5月31日（月）</td> <td>榛原・吉田</td> </tr> </table>	最終防除日	地区	5月23日（日）	白羽	5月25日（火）	地頭方(国道150号線以南)	5月26日（水）	地頭方(国道150号線以北)		相良(須々木、片浜)	5月27日（木）	菅山 萩間	5月31日（月）	榛原・吉田
最終防除日	地区															
5月23日（日）	白羽															
5月25日（火）	地頭方(国道150号線以南)															
5月26日（水）	地頭方(国道150号線以北)															
	相良(須々木、片浜)															
5月27日（木）	菅山 萩間															
5月31日（月）	榛原・吉田															
いちご	<p>育苗管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灌水管理 天候や風の強さにより培土の乾き具合が変わりますのでよく観察して灌水量、回数を決めてください。基本的には朝に十分に行い、11時頃、14時頃の3回程度行ってください。 ・施肥 定期的に施肥を行ってください。 IB化成の場合は8粒/株程度を20日間隔で施肥を行ってください。また、定期的に硝酸イオン試験紙で測定してください。 ・葉枚数 親株の葉枚数は3枚程度で管理してください。 子株の葉枚数も現段階では必要ありませんので葉かきを行ってください。 	<p>本圃管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度管理 日中は26℃程度、夜間は8℃程度で管理してください。 着色を遅らせたい場合や灰色かび病が心配されるようでしたら夜間も風下側のサイド換気を開放してください。 ・病虫害防除 アザミウマ、アブラムシ、ハダニ、コナジラミ、うどんこ病の発生が多くなりますので予防並びに初期防除を行ってください。 ・ハチ 収穫を終了する20日前まではハチによる交配が必要です。 収穫が終了したハウスは 収穫が終了したハウス内には多くの病虫害が発生しています。そのまま放置してしまうと、その病虫害が育苗圃や近くで栽培している作物に移動してしまいますので40℃以上50℃未満で1週間程度蒸し込みによる殺虫・殺菌をおこなってください。 														

<p>馬鈴薯 2～6月</p>	<p>各栽培時期によって生育状況が異なりますので、栽培状況を確認しながら防除等の管理に努めてください。</p> <p>ハウス栽培では栽培終盤を迎え、トンネル・路地栽培では多くの圃場で収穫期を迎えています。</p> <p>気温等の影響で葉や樹の生育不良が見られる場合は、葉面散布剤・液肥の散布をおすすめします。</p> <p>品質保持の為、収穫遅れにならないように気を付けてください。</p>	<p>○疫病 ＜予防＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダコニール 1000 500～1,000 倍-7 日-5 回 ・ドイツボルドーA 400～800 倍-無制限 (ドイツボルドーA は野菜類で軟腐病の登録もあります。500～1,000 倍、無制限) <p>＜疫病治療＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホライズン DF 1,000～2,500 倍 14 日-4 回 ・フォリオゴールド 500～1,000 倍-7 日-3 回 (フォリオゴールドは、リドミルとダコニールの混合剤なので使用回数に注意) <p>＜軟腐病治療＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カセット水和剤 1,000 倍-7 日-3 回 ・スターナ水和剤 1,000 倍-7 日-5 回 <p>○アブラムシ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランネット 45DF 1,000～2,000 倍 7 日-5 回 ・ダントツ水溶剤 2,000～4,000 倍 7 日-3 回 ・ベネビア OD 2,000 倍-7 日-3 回
<p>みかん</p>	<p>病虫害防除 黒点病 時期 5月下旬～6月上旬 スリップス・カミキリムシ 時期 5月下旬～6月上旬</p> <p>夏肥施用 時期6月上旬に施用します。 夏肥の遅効きは、着色不良の原因になります。 散布後軽く中耕します。</p> <p>作 業 着花管理 花の少ない樹 生理落果を防ぐよう、新芽の芽かき、かぶさり枝を除去して果実に光が当たる様にします。 花の多い樹 摘果剤の活用や、自然落果の具合を見定めながら、上部を中心に1 樹で3割程度早期に摘果していきます。</p>	<p>黒点病 ペンコゼブ水和剤 600倍 (30日-4回) スリップス・カミキリムシ アドマイヤー顆粒水和剤10,000倍 (14日-3回)</p> <p>夏肥 ① 柑配4号 7袋 ② みかん化成1号 5袋 ③ 粒状固形26号 7袋 10 畝当たり①～③のいずれかを施用します。</p> <p>温州ミカン間引き摘果 ターム水溶剤 1000～1500 倍 2次生理落果発生期 (満開 20～40 日後) ※タームは2次生理落果期に1回のみ。 フィガロン乳剤 1000～2000 倍 満開 20～50 日後で生理落果のある時 ※フィガロンは生理落果期に一回のみ。</p>

<p>メロン 4~8月</p>	<p>既に交配が済み肥大期を迎えている圃場が多くなってきた状況です。</p> <p>★右側記載の農薬の倍率等は、対象となる病害虫によって異なる場合がありますので、農薬ラベル等での確認をしていただいてからご使用してください。</p> <p>定植後の活着をスムーズに行い、良い雄花を咲かせる為にもマルチやトンネルで十分な地温を確保してください。</p> <p>メロンの根は浅根性で酸素要求量が大きく、排水・通気の良い土壌条件を好みます。</p> <p>育苗中・定植後それぞれの生育状況に応じて防除の管理に努めて下さい。</p> <p>【交配前の防除注意】 農薬の影響により交配時にミツバチが活動しにくくなる場合がありますので、交配前の防除は使用する農薬の選択に注意してください。</p>	<p>【生育期】</p> <p>○うどんこ病、べと病、つる枯病 ・ダコニール 1000 700~1,000倍-3日-5回</p> <p>○うどんこ病 ・ポリオキシシAL水和剤 1,000倍-前日-5回</p> <p>○ハダニ、アブラムシ、コナジラミ ・モベントフロアフル 2,000倍-前日-3回 ※育苗期の灌注1回と、生育期の散布3回の計4回使用可能。</p> <p>○アブラムシ、コナジラミ ・バリアード顆粒水和剤 2,000~4,000倍 前日-3回</p> <p>【交配後】</p> <p>○アブラムシ、コナジラミ ・ダントツ水溶剤 2000~4000倍 前日-3回 ・ベストガード水溶剤 1000~2000倍 7日-3回 ・コルト顆粒水和剤 4000倍 前日-3回</p> <p>○うどんこ病 ・イオウフロアフル 500~1000倍 前日-無制限</p> <p>○うどんこ病、キャンカー（つる枯れ病） ・アフェットフロアフル 2000倍 前日-3回 ・パレード 20フロアフル 2000~4000倍 前日-3回</p> <p>※農薬の対象病害虫について、上記のように記載がありますが、薬剤によって他の病害虫の登録内容もございますのでご使用の際は必ず容器のラベル等をご確認していただきご使用していただくようお願い致します。</p>
---------------------	---	---

<p>水稻 4～9月</p>	<p>普通期栽培は田植え期になります。 田植え前の苗箱処理剤と田植え後の除草剤散布を行って下さい。</p> <p>○田植え後除草剤 [粒剤] ・パワーウルフ1キロ粒剤 51 1kg/10a (移植直後～ノビエ 2.5 葉期) ※移植後 30 日まで ・スパークスター粒剤 3kg/10a (移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期) ※移植後 30 日まで ・アクシズMX1 キロ粒剤 1kg/10a (移植後 7 日～ノビエ 4 葉期) ※収穫 45 日前まで [ジャンボ剤] ・カチボシLジャンボ 300g/10a (移植直後～ノビエ 2.5 葉期) ※移植後 30 日まで ・エリジャンジャンボ 300g/10a◆ (移植直後～ノビエ 1 葉期) ※移植後 30 日まで ・テッケンジャンボ 500g/10a◆ (移植後 15 日～ノビエ 4 葉期) ※収穫 60 日前まで ◆エリジャンジャンボは初期剤なので、中後期剤のテッケンジャンボとの体系処理をお願いします。</p> <p>○ジャンボタニシ ・スクミノン 1～4kg/10a (2回 ※収穫 60 日前まで) 田植え直後～3 日以内の被害が出る前までに散布をして下さい。</p>	<p>【早期栽培】 通常の水管理を行って下さい。 中干しは田植え後約50日で、莖数が20本前後の頃に開始をして下さい。 梅雨時期に入り降雨が多くなるので、約30日と長めに干すようにして下さい。</p> <p>【普通期栽培】 ○育苗中の防除（灌注処理） 苗立枯病 ・ダコニール1000 500倍 0.5ℓ/箱 2回 ・タチガレエースM液剤 500倍 0.5ℓ/箱 1回</p> <p>○施肥 [キヌヒカリ・なつしすか・きぬむすめ] 標準 土改材 とれ太郎 60kg/10a 元肥 マップ202 30kg/10a 裏作有 土改材 けい酸加里 40kg/10a 元肥 マップ202 25kg/10a [コシヒカリ・ひとめぼれ・あきたこまち] 標準 土改材 オイスターミネラル 80kg/10a 元肥 マップ202 20kg/10a 裏作有 土改材 けい酸加里 40kg/10a ※裏作跡地は基本的に元肥を施用しない。</p> <p>○施肥（元肥一発） 標準 土改材 とれ太郎 60kg/10a 元肥 エコゴールド 50kg/10a 裏作有 土改材 けい酸加里 40kg/10a 元肥 エコゴールド 30kg/10a ※倒伏しやすい品種への元肥一発には注意して下さい。</p> <p>○苗箱処理剤 いもち病、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ ・ブイゲットプリンス粒剤 10 50g/箱 (緑化期～移植当日) ・ピカピカ粒剤 50g/箱 (移植前3日～移植当日)</p>
<p>大根 9～2月</p>	<p>(9～2月に掲載予定です。)</p>	<p>(9～2月に掲載予定です。)</p>
<p>レタス 9～3月</p>	<p>(9～3月に掲載予定です。)</p>	<p>(9～3月に掲載予定です。)</p>
<p>サニーレタス 9～3月</p>	<p>(9～3月に掲載予定です。)</p>	<p>(9～3月に掲載予定です。)</p>
<p>★☆☆隣接する圃場に他の作物が栽培されている場合、風のない日に防除する「ドリフト軽減噴口」を使用するなど十分な注意をお願いします。☆☆</p>		

次回発行 令和3年6月8日